

## 新春 浮世絵展 ～斎藤文夫コレクション～

川崎浮世絵ギャラリー（川崎駅前タワー・リパーク 3階） 2021.01.05～31



江戸時代の人々は、元旦の夜明け前から「初日の出」を見に出かけて幸多き一年を祈り、2日の「物はじめの日」には、武家は馬乗り始め、商家では初荷・初売りが始まり町は賑わいの様相となった。

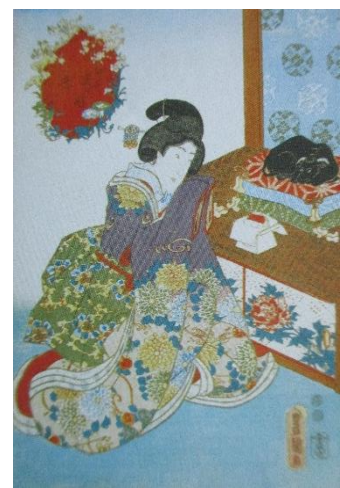
当時の市中では獅子舞、万歳、春駒などの門付の芸人が回り、人々は吉夢を信じて宝船の絵を枕の下に敷いて眠ったとされ、新年を喜び祝う気持ちは今も昔も変わらないようである。

右上：三代歌川豊国《春遊娘七草 双六》

左下：三代歌川豊国《東海道名所入新坂道中双六》

「斎藤文夫氏」は、元参議院議員・川崎市観光協会会長で、およそ50年の歳月をかけての「浮世絵」コレクターで、「川崎・砂子の里資料館」を開設し無料公開をしてきたが、諸般の事情で閉館しギャラリーの開設となった。

本展は、2021年の干支である「丑」をモチーフとした「浮世絵」や「肉筆画」のほか、「七福神」や「吉夢」をあらわした作品、「双六」などを併せて展示して、新しい一年のはじまりに「福を呼ぶ浮世絵」を楽しむことができる。



左： 溪斎英泉 《黒牛をまたぐ関取》

中： 喜多川歌麿 《山姥と金太郎 年始》

右： 三代歌川豊国 《十二支乃内 丑》